

【巻頭言】

立教大学日本学研究所は、二〇〇〇年四月の設立以来、総合大学である本学の特徴を生かし、日本学に関するあらゆる分野の研究を進展させるとともに、国内、国外の日本学研究を促進し、学術交流の実現に寄与することを目的として設立され、活動しています。

本号には、所員・研究員による論文六本を掲載しています。

昨年度は、新型コロナウイルスの感染拡大による影響で、計画していたシンポジウムや研究例会が中止や延期になるという苦しい事態となりました。しかし、そのような状況の中でも、オンラインという新しい手段によって、二回のフォーラムを開催することができました。十一月と二月に行われた「東アジア文化権力研究学術フォーラム・伝統と正統性、その創造と統制・隠滅」(韓国・翰林大学校日本学研究所との共催)です。ここでは、韓国、台湾、日本の研究者の交流がオンライン上で実現しました。

その後、新型コロナウイルスの感染拡大は収まることなく、今年度も、東京都では緊急事態宣言が何度も発出される状況が続いています。しかし、そのように行動が制限される状況であるにもかかわらず、所員・研究員の方々の活発な研究と執筆によって、本号に六本もの論文を掲載できたことを喜ばしく思います。

本研究所の目的達成のため、今後も多彩なシンポジウム、研究例会を企画し、本誌の更なる充実を目指してまいります。一層のご支援をお願いいたします。

二〇二二年十月

立教大学日本学研究所 所長 井野葉子